

## 2017年度第3回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 2017年11月15日(水) 13:30~16:30
2. 場所 建築会館会議室 202号
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 田中剛, 一戸康生, 宇佐美徹, 岡崎太一郎, 向野  
(敬称略) 聡彦, 田川泰久, 成原弘之, 西山功, 石原直(緑川光正 代理), 見波進, 山田  
哲, 兼光知巳(記録)  
欠席: 岡本哲美, 尾崎文宣, 越智健之, 笠井和彦, 木村祥裕, 澤本佳和, 下川  
弘海, 多田元英, 竹内徹, 津田恵吾, 中込忠男, 原田幸博
4. 資料(ストレージサーバ)
  - 03-01 議事予定(井戸田主査)
  - 03-02\_2017年度第2回鋼構造運営委員会議事録案(兼光)
  - 03-03-1 第2回構造本委員会資料(井戸田主査)
  - 03-03-2 第2回構造本委員会議事メモ(井戸田主査)
  - 03-03-3 次年度予算配分(井戸田主査)
  - 03-03-4 調査委員会提案(案)(井戸田主査)
  - 03-04-1 座屈小員会報告(木村委員)
  - 03-04-2 座屈小員会2018活動計画(木村委員)
  - 03-05-1 鋼構造接合小委員会\_2018活動計画(山田委員)
  - 03-05-2 鋼構造接合小委員会\_第2回小委員会議事録案(山田委員)
  - 03-06-1 素材小委鑄鉄WG170825議事録(案)(見波委員)
  - 03-06-2 素材小委 | 18活動計画(見波委員)
  - 03-07-1 環境小委員会報告(兼光)
  - 03-07-2 環境小委員会\_2018年度活動計画案(兼光)
  - 03-08-1 塑性設計小委員会第3回議事録(五十嵐幹事)
  - 03-08-2 塑性設計小委員会18活動計画資料(五十嵐幹事)
  - 03-09-1 鋼構造設計規準改定書委員会報告(田川委員)
  - 03-09-2 鋼構造設計規準改定小委員会\_2018年度活動計画(田川委員)
  - 03-10 英文化小委員会(岡崎委員)
  - 03-11-1 各種アンカーボルト設計WG報告(田川委員)
  - 03-11-2 各種合成構造設計指針改定小委員会\_2018年度活動計画(田川委員)
  - 03-12 耐火関係の報告(尾崎委員)
  - 03-14 2018年度大会PD企画案\_鋼構造(兼光)
  - 03-15 座屈設計指針改定講習会会告(井戸田主査)
  - 03-16 質疑回答(五十嵐幹事)
  - 03-17 若手優秀発表賞について(井戸田主査)

- 03-18 鋼構造運営委 | 全体申請予算 (井戸田主査)
- 03-19 重点審議 (井戸田主査)
- 03-20-1 鋼構造関連の規準・指針の位置づけ (井戸田主査)
- 03-20-2 鋼構造関連の規準のありかたについて (竹内委員)

## 5. 議事内容

### (1) 前回議事録の確認

- ・資料 03-01 に基づき、兼光より、前回議事録案の説明があり、承認された。

### (2) 構造本委員会の動き

- ・資料 03-03-1~4 に基づき、井戸田主査から構造本委員会の報告があった。
- ・鋼構造運営委員会予算：4,570,000 円 (本年度予算：3,370,000 円より増)
- ・2018 年度 PD は、運営委員会提案の内容を 3 日目午前に実施することが承認された。
- ・接合部設計指針の英語版の構造委員会査読担当は、堺純一先生 (福岡大学, 鋼コンクリート合成構造運営委員会主査, 稲井栄一先生 (山口大学, 壁式構造運営委員会主査) となった。
- ・下記出版物の絶版伺いについては、「絶版とし、デジタルアーカイブで提供する」が承認された。  
鋼構造建築物における構造設計の考え方と枠組 (1999.9.20 出版)
- ・「建築構造基準体系の国際的動向に関する特別調査委員会」の設置が提案された。

### (3) 小委員会・WG等の報告

- ・資料 03-04~03-12 に基づき、各小委員会・WG等の担当委員から報告 (現在の活動と来年度の活動計画案) があった。

#### 座屈小委員会 (資料 03-04-1,2 五十嵐幹事 (木村委員代理))

- ・鋼構造の座屈に関する諸問題」の刊行 (2021 年度予定) に向け、引き続き検討。トピックスは、境界条件。
- ・2019 年度大会 PD を予定。

#### 接合小委員会 (資料 03-05-1,2 山田委員)

- ・鋼構造接合部設計指針の改定について検討。2018 年度に指針の原稿を執筆予定。
- ・井戸田主査より、構造本委員会にて、「ガイドブック」という用語は意味としては不自然という意見があり、今後、学会として書籍タイトルの見直しの可能性があるとの報告があった。「ガイドブック」というタイトルの書籍を改定する場合は、学会の動きに留意して欲しい。

#### 素材小委員会 (資料 03-06-1,2 見波委員)

- ・ハンドブックに関して、引続き検討している。
- ・鋳鉄WG 鋳鉄の許容欠陥について議論した。
- ・2018 年度から新規小委員会として申請 (4 年間)。鋳鉄WGを申請 (2 年間)。

#### 環境小委員会 (資料 03-07-1,2 兼光)

- ・2018 年度 PD の内容を検討。
- PD の内容は、運営委員会にて議論すること。

#### 塑性設計小委員会 (資料 03-08-1,2 五十嵐幹事)

・「鋼構造塑性設計指針」の第4版改定の議論を引き続き行った。

→今後の鋼構造関連の規準・指針のあり方に配慮した改定を検討してほしい。

#### 鋼構造設計規準改定小委員会（資料 03-09-1,2 田川委員）

- ・改定作業は予定通り進んでいる（次回小委員会までに、原稿案が揃う見込み）。
- ・2019年度出版予定。

#### 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会（資料 03-10 岡崎委員）

- ・S規準（英語版）は出版済。
- ・英語版の売れ行きは悪いので、周知が必要。S規準をSCT&Tに投稿し宣伝予定。
- ・2018年度は、新規の英文化作業は実施せず、2019年度PDの検討を行う予定。

#### 各種アンカーボルト設計WG（資料 03-11-1,2 田川委員）

- ・2018年度から各種合成構造設計指針改定小委員会（4年間）を新規申請。
- ・第4編の改定作業が多いことから、WGを設置。

→当面、鋼構造運営委員会が主担当で進める

#### 耐火設計関連（資料 03-12 井戸田主査（尾崎委員代理））

- ・2019年度から小委員会を再開予定。

#### 災害委員会（五十嵐幹事）

- ・前運営委員会から委員会は開催されていない。

#### (5) 来年度（2018年度）大会PDについて

- ・資料 03-14に基づき、兼光より、2018年度大会PDの企画書の説明があり、内容を確認した。

#### (6) 座屈設計指針改定講習会準備状況

- ・資料 03-15に基づき、井戸田主査から座屈設計指針改定講習会企画の説明があり、内容を確認した。2月23日東京、3月2日大阪で開催予定。

#### (7) 学会図書の質疑回答の報告

- ・資料 03-16に基づき、五十嵐幹事より、質疑回答の状況報告があった。
- ・質問 16-1, 16-9は、田川委員より中野先生に回答を依頼する。

#### (8) 若手優秀発表賞について

- ・井戸田主査より、2018年度大会から実施する方針が提示され、承認された。
- ・実施要領について議論し、概ね、下記の方針で作成していくこととした。
- ・今後の進め方は、田中幹事が学会事務局に確認する。

#### [実施要領の方針案]

- ・プログラム編成は従来通りとし、審査員2名を各会場に配置する（発表賞対象者のみのセッションは設けない）。
- ・審査員は、セッションの内容に配慮し、小委員会に選定を依頼する。
- ・対象者と関係する審査員（例：学生が所属する研究室の先生）は避ける工夫が必要。
- ・採点は、審査員2名で行う。

- ・審査員による採点基準のばらつきを抑制する対策が必要（平均値を揃えるように審査員に依頼する、全ての採点結果を比較し受賞者を決める等が考えられる）
- ・審査員が欠席する場合は、小委員会が代理者を選定する。
- ・連番の場合、対象者の発表・質疑は単独で実施する（連続発表・まとめて質疑とはしない）。

#### (9) 鋼構造運営委員会予算原案について

- ・資料 03-18 に基づき、井戸田主査から鋼構造運営委員会予算原案の報告があった。原案に基づき、井戸田主査が次回運営委員会にて予算を提示する。

#### (10) 次回重点審議について

- ・次回重点審議は、塑性設計小委員会の活動内容とする。審議は、主に、塑性設計小委員会の活動を例に、今後の鋼構造関連の規準・指針のあり方とする。

#### (11) 鋼構造関連の規準・指針のあり方について

- ・資料 03-20-1, 2 に基づき、井戸田主査より、今後、鋼構造関連の規準・指針のあり方について議論していく旨の提案があり、議論した。主な意見は下記のとおり。

- ・学会の規準・指針は、法令とは一線を画し、実務者が学術的に知りたいことを示す内容としてほしい。

- ・現状の規準・指針には、設計理念的な解説が少ない。

- ・日本の設計思想を海外に発信できる資料も整備した方がよい。

- ・米国の規準・指針はルールを決めているのに対し、日本の規準類はモノに対する安全性を決めている。（例：米国では、LRFD というルールが示され、耐力係数は学術研究の進展に応じて更新していく仕組み）

→具体的な例で、議論を進めて行く。次回重点審議にて、塑性設計指針を例に議論する。

## 6. その他

次回運営委員会 2018年3月20日（火） 14:30-18:00

重点審議 塑性設計小委員会

以上